

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300421		
法人名	有限会社 グループホームふるさとの家		
事業所名	グループホーム「城下」しまばら	ユニット名	
所在地	島原市新湊二丁目丙1740-1		
自己評価作成日	平成26年12月10日	評価結果市町村受理日	平成27年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成27年1月20日	評価確定日	平成27年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の皆さんやご家族の皆さんに安心して楽しく生活していただくよう、個々の状態に合わせてお手伝いさせていただいています。今までの生活歴を職員が十分に把握し、その人に出合った日常生活を送っていただき自由な時間を過ごしていただいております。また、面会に来られたご家族でも利用者の皆さんと職員といつでも気軽に話すことができる家庭的な環境を提供しています。地域との交流も活発に行い、夏祭りや子供会の交流、または老人会とのグランドゴルフなど利用者の皆さんが楽しめる活動も行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの玄関には、ご利用者が書かれた「夢」という書が掛けられていた。ご利用者から「仕事をさせてくれずけん、幸せ」と言う言葉が毎日聞かれ、排泄や移動時のケアを行う際も感謝の気持ちを伝えて下さる。人生の大先輩の姿勢に、職員も日々感謝し、大きな学びを頂いている。二間続きの和室にはソファが置かれ、エレクトーンを弾いて下さる方もおられ、他の方も一緒に唄われている。外のウッドデッキでは庭のモミの木や愛犬を眺めながら日向ぼっこをされており、毎日の散歩やドライブ、季節の花見も日常で、地域行事にも参加している。四季折々の季節行事も大切にされており、年末には角松作りも行われた。終末期ケアも行われ、主治医や看護師である代表が24時間体制で駆け付けて下さり、職員の安心となっている。管理者を中心に何でも話し合える関係ができており、今後も更に、ご利用者主体の生活となるよう、ご利用者にホーム内の自治会長になって頂く事が計画されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を意識できるように、荘内に掲示している。さらに毎朝の朝礼時に唱和し全職員が理念を共通理解したうえで利用者に対する介護実践するように努力している。	代表と管理者を中心に、職員全員で理念の実践を続けている。新人職員も、代表から直接理念を学ぶ機会があり、日々の関わりの中で対応が困難な時は、理念に立ち返るように指導している。先輩職員の対応を傍で勉強し、日々成長を続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の挨拶はもちろん、居住区域間の配布物、回覧板等を通じての交流、地域行事の参加及び当施設の行事への参加の呼びかけ交流により地域のいろいろな世代との交流が図れる。	近所の方がお花を持ってきて下さり、夏祭りや餅つきも手伝って下さる。近所の方や配達にいられた郵便局の方にもお餅を配り、喜んで頂いた。年中祭りでは婦人会手作りのぜんざいを食べたり、天満宮祭りではホームの前がお旅所であり、巫女さんの踊りを楽しむ事ができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表が認知症に関する研修会の講師を務めたり中高生の福祉体験学習の申し込みや福祉専門学校の介護の指導も積極的に取り入れ多くの方々に勉強してもらうようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催しており、利用者の状況や行事報告等を行い出席者からいろいろな意見を聞きサービスの向上に努めている。	会議では話が盛り上がり、色々な情報交換が行われている。参加者からの意見やアドバイスも参考になり、婦人会やグラウンドゴルフに参加する事もできた。新会長が積極的に関わって下さり、他の参加者とも協力して地域連携を強化する方向で議論をする事ができている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも行政担当者が出席されているので、色々な情報や連絡事項なども伝えてもらうようにしている。	行政主催の講習会の講師(認知症ケア等)を代表が務めている。代表は「みんなで良くなっていこう」という思いがあり、島原市のGH連絡協議会を通して市の方に要望等を伝えている。防災の件で、広域と島原市の担当者がホームに来て下さり、一緒に話し合う機会も作られた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は理由にとわず行わないという方針が周知されている。身体拘束廃止委員会を中心に日々のケアの振り返りや評価修正を行い、身体拘束を行わないケアに一致協力して行っている。	“肌が弱い方なので、ケアの時も職員が手を握るのではなく、利用者から手を握って頂く”“利用者の方を傷つけない、言葉でも傷つけない”と言う代表の思いを大切に、日々実践している。感情が不安定な時も散歩にお連れしたり、大好きな犬と触れ合う機会が作られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議時に虐待についても話し合いをもち、全職員がその意味を理解している。「やってはいけないこと」と深く認識し防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し制度の理解はしている。必要性のある方には、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表や管理者が、相談時に詳しく説明をし利用者やご家族が理解納得され安心して利用して下さるようになっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族代表の参加もあり、意見や要望が反映できる場として認識されている。また面会時にも家族の要望を聞き取り、運営推進会議でお知らせする機会も設けている。	面会時は、ご本人と過ごす時間を大切にしており、帰られる時に要望等を伺っている。個別の事情に配慮し、代表や管理者、担当職員等と話す機会を作り、今後の要望等を伺っている。家族の協力も多く、家族からお誘いを頂き、自宅の薔薇の花を見学する事もできた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議で個々の職員が意見や考えを述べる機会を設けている。また、毎朝の朝礼時やミーティングでも意見を述べる機会を設けている。	各担当者会議(行事、身体拘束廃止委員会等)もあり、職員個々が責任を持って、自分の役割を担っている。行事等の運営や出し物等の意見も多く、職員同士で支えあう関係ができています。職員の家庭状況等にも配慮し、勤務時間の調整が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の生活環境に合う労働条件に合わせて雇用して下さったり資格手当や職種手当もつけて下さり向上心を持って働けるよう取り組まれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修会参加、費用の助成及び負担を行っている。代表自身も会議での意見交換を機会とし自身での教育等も行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	親睦会やスポーツ大会など交流する機会を設けて下さりサービスの質を向上させていく取り組みをされている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思疎通の可能な方に関しては家族から提供された情報提供表を参考にしつつ、可能な限りコミュニケーションをとり、意思疎通困難な方にはなるべく早期に良好な関係を築き素直に意思表示できるよう働きかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや不安、入所を機に要望したいことなどを積極的に聴取し、徐々にいろいろなことを素直に言えるような関係となるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族とコミュニケーションをとり基本情報収集アセスメントを実施し今最も必要とされているサービスを色々な方法から考え支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔ながらのしきたり等を教えて頂いたり、なんでも話し合いをし共に暮らせる家族のような関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いや意見を十分に聴きまた職員も思いを伝え本人、家族職員が困ったことを共有しともに解決できる関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方の訪問では、ゆっくりと過ごしていただけるような環境作りに心がけている。	日々の生活の中で、昔ながらの慣わしを教えて頂き、馴染みの干し柿作りや梅干し作り、らっきょう作りも継続している。山菜採りや芋掘り、みかんの収穫も行われ、お墓参りや馴染みの美容室、馴染みの病院、馴染みのお店等にもお連れしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の度合いもさまざまであり、難聴の方も多いので職員が間に入り孤立されないように努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時にはその後の生活方法など助言したり必要に応じて家族や担当者には情報を提示したり相談に応じるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	折に触れコミュニケーションによる把握に努めている。家族へも情報収集を行い参考にさせていただいている。	毎日の生活の中で職員も横に座り、ゆっくりとご本人の思いを伺っている。質問を書いた形式のノートも活用し、筆談も行われている。「家に帰りたい」と言う方もおられ、家族との話し合いも行われ、ご本人にとって最適な生活環境の検討を続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報や本人とのコミュニケーションにより把握している傍らご家族からも情報を得て、ホームの中でも今までの暮らし方や行動をできる限り続けられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、朝礼時の申し送り等、またその日の表情やバイタルなどでも把握し無理のないようすごしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制で日々の記録の情報を基に家族の意向も取り入れながら作成をする。毎月のモニタリング及び評価を行い、職員会議でも情報交換を行いながら現状に即した介護計画を作成している。	アセスメント要約表もあり、ご利用者個々の“できそうな事”や楽しみを把握している。庭の散歩やドライブ、歌、エレクオン演奏なども計画に盛り込み、将棋がお好きな方は、通所サービスを利用する方と将棋をする機会も作られた。家族の要望も大切に、日々のケアが行われている。	26年度の取り組みで、“ヒヤリハット”の視点も強化し、転倒予防のための機能訓練や歩行訓練も盛り込まれている。今後も“ヒヤリハット”の原因を分析し、原因に応じた対応策の検討を続けていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の体調の変化、食事摂取状況、精神状態等を具体的かつ個人的に施設計画実行表に記録する。それらを職員全体が共有し介護計画に沿ったケアの実践に心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や家庭での行事への参加支援は利用者の体調に合わせ柔軟に対応するよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	山菜取りや芋ほり、柿やミカンの収穫作業、またなじみのお店など気軽に出かけたりボランティアや生徒の訪問を受け入れ利用者が心豊かに暮らしを楽しむよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医にお願いしている。かかりつけがない場合は、当施設の協力機関にお願いしている。	往診も受けられ、ご利用者がデスクでお茶をしていると、「よかねー」と先生が声をかけて下さる。状態変化時は電話で報告し、定期の受診結果は手紙で報告している。24時間体制で主治医とホームの看護師(代表)に相談でき、夜中も往診して下さる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より注意深く利用者の観察を行うことにより些細な変化も見逃さず看護職に報告し必要時は医療機関の受診へとつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医、担当看護師との情報交換により利用者の持つ疾病のコントロールや治療継続の支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に代表が、本人や家族に説明している。また施設で看取りを希望される方や重度化された方に関しては、ご家族や主治医や施設と何度も話し合いをもちともに協力してその人らしい終末を迎えられるよう支援に取り組んでいる。	「最期までここで」と言われる方もおられ、主治医も24時間体制で協力して下さり、看取りケアが行われている。急変時は看護師(代表)も駆けつけて下さり、職員の安心となっている。職員の観察力も深く、早期対応に繋げており、終末期には家族の方もプリンなどを持ってきて下さり、職員と一緒に温かいケアをして下さっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しいつでもみて勉強できるようにしている。実技を含めた研修も行い全職員が対応できるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防災委員会で企画し定期的に訓練を行っている。毎日21:00に日次点検をチェックしている。	2月に1回、昼夜想定で自主訓練を行い、年2回は消防団・消防署・地域の方と、4棟合同の避難訓練をしている。津波や普賢岳噴火、地震・山崩れ等を想定した訓練も行われ、毎月、各棟の代表(男性職員)が災害対策を検討し、地域の避難訓練にも参加している。災害に備え、災害バックや独自の持ち出し品なども玄関に準備しており、島原市GH連絡協議会で災害時の協定も結んでいる。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全ての利用者を人生の先輩と尊敬し、また人格を尊重し言葉かけや態度には十分心配りをするようにしている。	島原の優しい方言を使い、声の強弱やトーン、話す早さにも注意している。ご本人が優越感に浸られるような対応を心がけ、1人1人に応じた声かけをしている。ご本人が作られた作品を褒めたり、洗濯物を畳んで下さった時も見事な仕上がりで、常に感謝の言葉を伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表せるような雰囲気づくりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の状態により、希望に沿った支援を行い満足のいく一日を過ごしていただくよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選んでもらったり、できない方はなじみの服などその方が好きで落ち着かれるような状態になるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を感じられる献立を考え、可能な限り健康と嗜好との両立を図っている。利用者の好みも取り入れながらおいしく楽しい食事を心がけている。	調理専門の方と職員が料理している。職員の親戚の方が野菜を持って来て下さり、ネギや金柑、青紫蘇などは畑で栽培している。寒天等のデザートやドレッシングも手作りで、彩りにも配慮している。ご利用者も、下ごしらえや食器拭き等をして下さっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬のものを使うように心がけ、栄養の偏らない内容と各自の食事摂取に関する自立度にあつた形態を工夫するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の残存機能に応じ、ご本人に合った支援をしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者ごとに排泄チェック表を利用し、パターンを把握して誘導を行っている。	布の下着を着用し、トイレで自立している方もおられる。職員は外で物音に気を配り、排泄後は日に2回、温かいタオルで清拭している。おむつの使用金額を記録し、全職員の意識付けをしており、家族にも排泄表を見て頂いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容に野菜や食物繊維を多く取り入れまた運動により腸の蠕動を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は一人ひとり入って行っている。体調やタイミングに合わせて行っている。	入浴好きな方が多く、時間帯や湯温などの希望に応じている。入浴を拒まれる時は理由を把握し、自然に入浴して頂けるような声かけを工夫している。体調に応じて2～3人で介助し、安全な入浴を心がけている。菖蒲湯や柚子湯なども行い、職員との会話を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望に沿って自室や居間で過ごしていただいている。夜間の睡眠を安定して得られるように昼間を活動的に過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し、職員が誰でも見れるようにしている。また薬の変更などあった場合は申し送り帳に記入し確認に努め十分に注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の好きな方、散歩が好きな方、犬が好きな方いろいろな方がおられるので、十分な情報収集とご本人の意向を重視してレクを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の体調を考慮したうえでのドライブや買い物などに出かけている。季節の花(桜・コスモス・紅葉)等の見物に棟ですることもある。	外出は日常に行われており、ホーム周辺の散歩や、愛犬との触れ合いを楽しまれている。お弁当を食べながら花見を楽しまれたり、島原城近くの湧水を汲みに行かれている。系列の宅老所に行き、庭を眺めながらツツ採りも行われ、島原外港のイルミネーションも楽しまれた。地元のお祭りや慈恩寺祭りにも行かれている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理できる方はいらっしゃらない。ご希望時は、ご家族と相談のうえお買い物などに同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればいつでも気軽に応じるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いろいろな場所に季節の花を飾り、庭にも花を植え生活環境や季節感を取り入れている。	庭には二代目のモミの木が植えられ、クリスマス飾りつけを楽しまれた。居間は二間続きの和室があり、和室の外のデッキでは日向ぼっこをされている。台所は対面で、テーブルで書写をされながら、料理の音などを感じる事もできている。和室のエレクトーンを弾いて下さる方もおられ、他の利用者も一緒に唄われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士が隣り合って座れるように誘導したり個々の好まれる場所を察知し過ごすことができるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていたもの等持ち込まれ使用されている。	居室のドアは引き戸や障子戸などがあり、居室間違いを減らす工夫がされている。タンスやテーブル、座イス、置時計などを持ち込まれ、仏様の絵や遺影等も飾り、手を合わせる姿が見られている。自宅の草取りに職員と一緒にいき、庭の榊を居室に飾っている方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には大きな字で名前を書いて表示している洗面所やトイレ、浴室にもわかりやすく表示している。		